

健全育成シリーズ (228)  
「自然を探検する楽しみ」



今年には国際生物多様性年。現代は年間4万種の生物が絶滅しているという説もあり、私たち人間と自然との関わりのあるかたがいま強く問われていきます。21世紀は共生の時代と言われるのもこのような現状があるからでしょう。しかし、今の子どもたちが身近な自然と親しむ機会はほとんどありません。生きものが嫌い、あるいは苦手という大学生も少なくありません。そのような大学生と話しをしてみると幼年期に生きものと触れあう、観察するという経験が圧倒的に少なかったこと、どうやらその一因がありそうです。

『沈黙の春』の著者であるレイチェル・カーソンは、美しいもの、未知なものに目を見る感性を育むために、まずは子どもとともに自然を探検することを勧めています。そして子どもたちが会おう事実のひとつひとつを、やがて知識や知恵を生みだす種子にたとえて、さまざまな情緒やゆたかな感受性は、この種子をはぐくむ肥沃な土壌だと述べています。新しいものや未知

なものに触れたときの感激が、その対象となるものについてもっと知りたいという思いを呼び起こす。そのようにして見つけた知識はしっかりと身につくというわけです。

この「新しいものや未知なもの」を意外性と言い換えてもいいでしょう。たとえば神社で子どもたちとムササビを観察すると、必ずといっていいほど滑空の瞬間、「あっ飛んだ」と歓声があがります。樹上で生活するムササビが皮膜を使って木から木へと移動する様子に感激するのは、それが私たちの想像をはるかに超えた意外なものだからでしょう。ムササビだけではなく、さまざまな形や色をしたイモムシにもそれはあてはまります。身近に自然がせまる都留はまさに意外性に満ちた世界の賑わいにいたるところで出会えます。

コンピュータゲームや人工的なキラキラターでこうした生きたムササビを創り出すことはできません。それは人間が考える世界を超えることができず、多様性や意外性に乏しいからです。



## 山梨県富士・東部保健福祉事務所だより

4月から肝炎治療医療費助成制度が改正されました。

難病(特定疾患)に11疾患が追加されました。

### ■改正点

- ①自己負担限度額の引き下げ(従来のも月額1万円・3万円・5万円↓月額1万円・2万円へ)
- ②B型肝炎ウイルス肝炎の核酸アナログ製剤治療を助成対象に追加(更新可)
- ③制度利用回数の制限緩和(インターフェロン治療に係る2回目の利用を認める)

難病医療費の助成に、昨年度から11疾患が追加され56疾患が制度対象になりました。

《追加11疾患》

- 家族性高コレステロール血症(ホモ接合型)
- 脊髄性筋萎縮症
- 球脊髄性筋萎縮症
- 慢性炎症性脱髄性多発神経炎
- 肥大型心筋症
- 拘束型心筋症
- ミトコンドリア病
- リンパ脈管筋腫症(LAM)
- 重症多形滲出性紅斑(急性期)
- 黄色靱帯骨化症
- 間脳下垂体機能障害(プロラクチン分泌異常症、ゴナドトロピン分泌異常症、ADH分泌異常症、下垂体性THS分泌異常症、クッシング病、先端巨大症、下垂体機能低下症)

### ■対象要件

- 山梨県に住民票などがあり、B型・C型肝炎ウイルス肝炎のインターフェロン治療を要すると診断された方
- B型肝炎核酸アナログ製剤治療を要すると診断された方

### ■助成の内容

診療費、薬剤費、入院費などの個人負担の上限を収入に応じて月額1万円又は2万円とし、残りの費用を国と県が負担する。

助成期間は原則1年です。申請される場合は、助成の認定基準を満たしているかどうか、主治医によく相談のうえ、本制度を活用してください。

初めてのの方は主治医に相談のうえ、保健所へご連絡ください。

詳しくは、山梨県富士・東部保健福祉事務所のホームページ(難病支援)または、お問い合わせください。

問合先 地域保健課

☎0555(24)9035

問合先 健康支援課

☎0555(24)9034